

小中一貫校問題市へ要請

瀬戸市は、9月27日、瀬戸市長と教育長に対して小中一貫校についての懇談の申し入れを行いました。

瀬戸市小中一貫校についての懇談の申し入れ

記

1. 学校の配置及び平面図に
関して
○職員・保護者・業者等の
駐車場の位置について
○児童生徒の通学路の安全
確保、バス停の位置につ
いて
○防災・防犯上の安全確保
(自然災害・防犯・被害、
セキユリテイ対策)につ
いて
○職員室に關して
・「事務所衛生基準規則」
の内容を満たした快適な
職場であること
・... (略) ...
2. 教育内容について
○小中の学校経営と小中間
の教員の交流について
○カリキュラム作成の進捗
状況について
○教職員の加配について
○学校経営にかかわる教職
員以外の人的配置につ
いて
3. 予算に關して
○小中一貫校に關するこれ
までの経費と今後必要と
なる予算について

4. その他
○部活動の運営について

教育委員さん 頑張ってください!

平成29年度第1回瀬戸市総合教育会議(平成30年3月28日に行われた)の議事録を最近になって読む機会があった。教育委員会は、ほとんど教育委員さんの発言はなく、事務局側が提案、説明をし、賛否を取るということが多かった。今回の会議は「地域全体で子どもを育み、社会が共に成長するまちづくり」をテーマに各委員さんが、自分が関わった校区で行なわれている地域と学校の共同事業を紹介し、感想を述べてくれた。

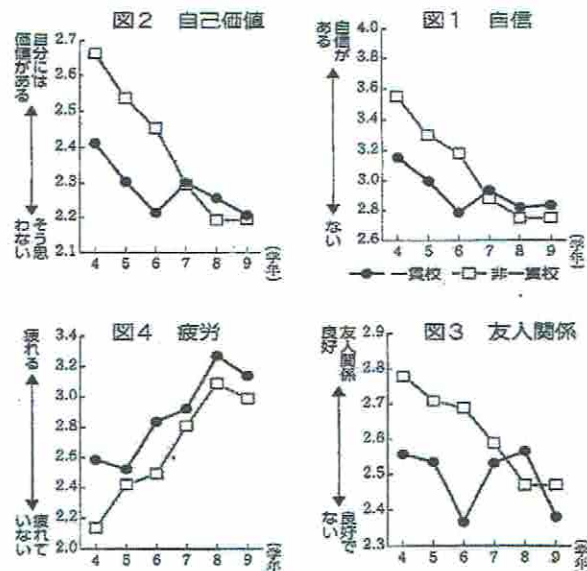
古瀬戸地区では、学校の草取りや40年続いている鳴子チームや「メダカが住める川づくり」など。本山地区では「本山工房」で作った焼き物を生徒が瀬戸物祭りなどで売るなど。東明地区は「歩け歩け」やアマゴ堀み、ねむの森、長谷観音などで地域に触れてもらおう



「一貫校」と「通常」学校の子ども

施設一体型小中一貫校の小学4年～6年生は、自信や自己価値、友人関係、疲労感において、非一貫校と比較して、ネガティブな傾向

▼都筑学中央大学教授の調査結果解説より抜粋



- 上級生との比較で、自分を低く見積もる可能性がある。体力的にも自分を超越する上級生が常にいる状況のもとで、自己評価が低くなってしまうのではないか。
- 一貫校は開校後の歴史が浅いため学校運営システムが安定せず、そのことが年少の児童にマイナスを及ぼしているのではないか。
- 一貫校の児童は、学校規模の拡大により自分の居場所が見つけにくくなったのではないか。
- 9年制の学校による学年の位置づけの変化が、児童に影響を及ぼすのではないか。一貫校の小学校高学年は、高学年としての出番が少なく上級生として自分を意識しづらくなっているのではないか。(都築氏の指摘)

活動。光陵連区や品野連区では、外国人児童・生徒が多い地域だが、「こども日本語教室」や瀬戸ロータリークラブのイベントなどがあって、国際的な事業が広がっていること。掛川小では、放課後学級「掛川つ子」を地域力向上委員会が運営しており、「地域の子どもたちは、地域で育てる」をモットーに活動され、地域の人の生きがいにもなっている。

瀬戸市には、いいところがたくさんあるということを各委員さんの発言からうかがえた。各地域の築いてきたコミュニティを大切に、まちづくりや学校教育を考えていってもらいたいと思った。

(原田 千育)



安倍内閣の暴走をとめよう! 「9. 19市民大集会」

安保法制廃止!
辺野古の新基地建設許さない!
安倍9条改憲NO!!



「安倍暴走ストップ 9. 19市民集会」が、19日午後6時から久屋広場で開かれました。

主催者あいさつに続き、「沖縄」「原発」「非正規雇用」のスピーチがありました。特別ゲストの川口真由美さんの歌は心に響き、皆を励ました。

主催者の下澤悦夫さん、本秀起さん、中谷雄二弁護士さんのスピーチの後、650名の隊列で栄をデモ行進しました。愛教労の仲間とともに、市民にアピールしました。

愛知母親大会に参加して

第4分科会「誰もが安心して受けられる医療・介護を！」の報告

講師 小松民子さん（愛知県社会保険推進協議会事務局長）
参加者 52名

1、小松民子さんのお話

今は災害の連続で自然の猛威はすごいですね。政治では、沖縄知事選があり、自民党総裁選があります。安倍政権は社会保障を減多切り、制度はほとんど改悪されている。たくさんの方のレジュメ・資料、知ったクパンフを基に盛りだくさんのお話をしていただき

①2018年4月 医療と介護・障害・報酬の持続改訂

病床数を減らし、社会保障費も削減し、削られた分は患者の負担に。
国民は所得税・消費税・保険料と三重払いになっているので、医療費の国民負担は全体の4割にもなる。

②安倍政権による社会保障改

我が新国
我が事・丸ごと地域共生社会
医療費・介護給付費を常に削
減する「しくみ」づくり
「実行部隊」は医療〓都道府
県 介護(福祉)〓市町村
受け皿は住民の「互助」
自己責任↓家族の連帯責任↓
地域の共同責任
公的サービスの産業化
社会保障改革と経済成長は車
の両輪

③介護 2017年 制度改
革の特徴 7つのポイント

- (1) 利用者負担のさらなる引き上げ 利用料3割
(2) 病床数削減の受け皿づくり↓「介護医療院」創設
(3) 「自立支援」に成果を上げた市町村に財政支援
(4) 「共生型サービス」の創設
(5) 介護報酬はわずかな引き上げ
(6) 安上りな担い手づくり↓「生活援助中心型サービス」、中高年「入門的研修」
(7) 改革工程表
- 政府は要介護1・2を「給付」から外し、認定者の65%の人を地域支援事業(総合事業)という自己負担サービスにしようとしている。↓介護保険料を払っているのにサービスが受けられない。
- ④生医療介護と一体化にむけた報酬改定
- 「ときどき入院・ほぼ在宅」
かかりつけ医の機能

④生医療介護と一体化にむけた報酬改定

「ときどき入院・ほほ在宅」
かかりつけ医の機能

《小松さんの主張》

憲法25条「すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活面について社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」

「給付」は「必要」に応じ、「負担」は「能力」に応じて（税金は持つ者から持たざる者へ）

2. 主な質問・発言

愛知の教育を考える集い

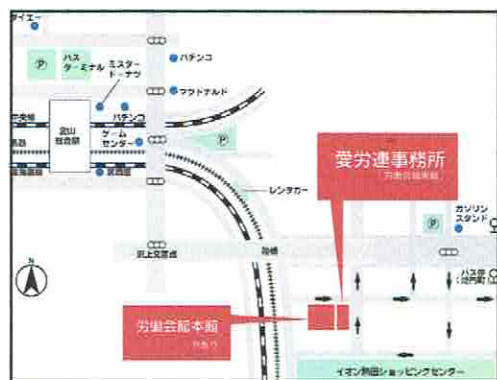
日時：2018年10月27日（土）
場所：労働会館（「金山」駅下車・徒歩8分）
記念講演：10：10～12：00

「どうする！？ 道徳科
～道徳教育のベクトルを変える～」

講師… 渡辺 雅之 さん(大東文化大学)

分科会（本館） 13：10～16：00
◎ 授業づくり・学級づくり（小・中学校）
◎ 困難を抱えている子に寄り添う教育
◎ どう考える・どうしたらいい

部活動問題・全国学力テスト
政治と教育（前川喜平さん《前文科省事務次官》の
講演内容調査問題）など



※JR・地下鉄・名鉄の各線「金山」下車 徒歩8分
(イオン熱田の方向へ線路沿いに歩く)

①Q 消費税を上げる時、「社会福祉」にあてるといのが本当か？
A 法人税率引き上げの穴埋めに使われている。

②Q 自分の子が養護施設に入っているが、職員不足で大変。給与を上げて確保して欲しいがどうすればよいのか？
A 介護は昔、家族でしていたので、女・子などでもできるという発想なので、年収300万円ぐらいで設定されている。高齢者の世話は若い人には辛い仕事、セクハラ・パワハラ問題もある。厚労省は、5%アップしているというが、それだけでは、間に合わないひどい状態である。

③Q 介護職員にも外人さんなどいても、段階がある。月28000円しかない加算から、教育、昇給、雇用保険に

使っても良いとされ、給与は13万円ぐらいなので、これでは働き続けられない。看護師さんは二人で夜勤をするが、介護士は一人しかいない。休憩も取れないので、自制が効かない事件があつても……。

④Q 豊川まで救急車で2時間かかるところに住んでいる。2年前にやっと医者が来た。介護予防費を35万円もらつて、体操教室・うたこえ・絵手紙などをやり、「転ばぬ先の杖」として元気に活動している。

A ③④などの実態は国・県に声を上げて欲しい。新聞に投書するのも良い。

⑤Q 専門家がいないので、どう運動を進めたらよいかかわらない。

A 制度が分かりにくく、利用者によって介護度・サービスも変わるので、難しいと思

うが、自治体の係の人を招いて学習会をする(無料)と良い。社保協に依頼しても行きますよ。

3、申し合わせ事項

① だれもが安心して医療・介護が受けられるように、制度を学び、運動を続けましょう。

② 「愛知自治体キャラバン」に積極的に参加しましょう。

③ 憲法25条に基づいて「健康で文化的な最低限度の生活を営むことができる」よう政治を変えて行きましょう。

④ 介護・医療施設の利用者・働く人の現場の声を聞き、広める活動を進めましょう。

文責 原田 千青



③ 申し合わせ事項

- ①「わがまち」を「わがまち」にする。②「愛知自治体キャラバン」に積極的に参加しよう。③憲法25条に基づいて「健康で文化的な最低限度の生活」を営むことができるよう政治を変えて行きましよう。④介護・医療施設の利用者・働く人の現場の声を聞き、広める活動を進めましよう。
- 文責 原田 千青

文責 原田 千育